

町政を問う!!

11 議員が質問・提案を

防災対策

高齢者の避難対策は

より安全な対策を検討



よしおまさき 議員 吉尾昌樹

けでなく車椅子でも上がれるようなスロープの設置も必要と思うがどうか。

答 徳廣 情報防災課長

津波避難の整備は、平成24年度から地域の意見を要望を集約して約200の計画路線と避難タワー6基を整備してきた。高齢者、障害者等の避難行動に支援が必要な方の避難はこれからの大きな課題だ。

問 町内各地域にある避難道や避難タワーは車椅子や押し車では避難出来ない所が多くあり、見直しや新設が必要ではないか。県は南海トラフ地震では震度6以上の地震が想定されており、その時点で避難道の側面が崩れたり、大きな木などが倒れたり、避難出来ない状態になり、避難道の近くに住んでいる人たちも高台まで逃げる事が出来ず甚大な被害が出る避難タワーも階段だ

現在、県の福祉部局で進めている避難行動要支援者に対する個別避難計画の取り組みが重要だと考えている。この計画に基づいた訓練により、どこに避難できるか検証し整理する。今年度、新規避難道の選定基準を作成し、基準を満たした路線を整備していく。

A 松本町長

南海トラフ地震のような大規模災害の場合、さまざまな課題があると認識している。避難道だけでなく、耐震化未整備の公営住宅の問題など。今後の防災対策は、住民と充分な話しをしながら、より安全な対策を検討して進めていく。

教育問題

いじめ、不登校への対応は 学習時間の確保を

問 児童生徒によるスマホやインターネット問題について、小中学生のSNSやスマホによるいじめ、不登校などの問題への対応や課題など、児童生徒の実状はどうか。

答 畦地教育長

当町においては、SNS上の児童生徒間、トラブルは数件報告されているが、事件や犯罪に関係する問題に発展した事例

はないと認識している。不登校等の長期欠席については依然、減らない傾向にあり、大きな課題だと認識している。大方地区、佐賀地区に適応指導教室を設置し、昨年4月から大方中学校内にも校内適応指導教室を開設している。さらに来年度から、大方中学校に不登校担当の教員を配置し、専任で対応にあたってもらう。関係機関と一体的に各校と連携しながら、チームとして適応指導教室の運営にあたる体制を構築することとしている。



くじらルームと子どもサポートセンターがある浜松教育集会所